

本日ここに、令和7年第6回市議会定例会を招集いたしまして、補正予算案をはじめ、当面する市政の重要案件についてご審議をいただくわけであります。

各案件にわたります詳細につきましては、審議の過程で副市長並びに担当部課長からご説明申し上げることといたしまして、私は概要を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願いする次第であります。

師走に入り、今年も残すところ1か月となりました。

振り返りますと、今年1月には埼玉県八潮市で下水道管路の破損に起因する大規模な道路陥没事故が発生し、尊い人命が失われる事態となりました。この事故を受け、高度成長期に整備されたインフラなどの老朽化が全国的な問題としてクローズアップされていますが、本市においても2度にわたり予算を専決処分し、国土交通省の要請に基づき設置から30年以上を経過した内径2m以上の下水道管の緊急点検などを実施し、さらに現在、緊急度に応じて下水道管上部の空洞調査を実施しているところです。

全国的に大雪による被害が発生した2月初旬には、八幡浜市でも近年まれにみる積雪に見舞われました。市内主要道路の通行止めなどにより交通機関が麻痺する事態となり、晩かん類を栽培するハウスが倒壊するなど農作物の被害も甚大なものとなりました。これに対し、県やJAの関係機関と連携し、液肥補助やビニールハウス撤去の人的支援を実施したほか、市としても見舞金を支給するなど多角的な支援を実施しました。

3月28日には、旧八幡浜市と旧保内町の合併による新市発足から20周年という大きな節目を迎えました。5月11日に市制施行20周年記念式典を開催し、これまでの新市の20年の歩みを振り返り、未来へ向かう決意を新たにしたところです。また、今年度は合併20周年を記念し、多くのイベントや様々な分野での事業に取り組んでいます。

その一つとして、8月には京都府八幡市との友好都市協定を締結しました。八幡市とは、「やわた」という地名や、郷土の偉人「日本の航空機の父」二宮忠八翁が取り持つ縁により、平成25年から始まった中学生交流事業を契機に、様々な個人・団体間での交流を続けてきたことが実を結び、本市では初めてとなる友好都市協定の締結につながったものです。今後は、この協定を通じ、両市がお互いの強みを生かし、知恵を出し合い、観光振興、文化・スポーツ交流、教育、経済、そして防災での協力など、幅広い分野での交流事業を積極的に展開していきたいと考えています。

また、今年度は世界的なイベントとして、大阪では1970年以来55年ぶりとなるEXPO2025大阪・関西万博が4月から10月にわたり開催されました。当初はネ

ガティブな報道なども見受けられましたが、徐々に人気も高まり、最終的には国内外から2500万人を超える来場者が訪れ大いに盛り上がりを見せました。

同じく世界的なイベントでは、9月に「東京2025世界陸上競技選手権大会」が開催されましたが、各国からトップアスリートが集まる中で、110mハードル競技で予選を突破した本市出身の野本周成選手の活躍も記憶に新しいところです。

国政に目を向けますと、7月の参議院議員選挙において与党が大きく議席を減らし、政治の不安定化が懸念される中、10月には自由民主党の高市早苗氏が我が国では史上初となる女性の内閣総理大臣に指名され、「決断と前進の内閣」と自ら命名された新内閣が発足しました。

ガソリン税暫定税率の廃止や給食無償化など、既に具体的な施策についても打ち出されていますが、高市新首相におかれましては、物価高騰対策や外交政策など、国内外を取り巻く多くの課題解決に向け、強いリーダーシップを発揮されることを期待します。

現在、臨時国会において補正予算による総合経済対策の実施についても審議されています。本市としましても国の動向や経済情勢などを十分注視しながら、市民生活を守るため、引き続き適切な市政運営を心がけてまいります。

次に、道上伯体育館の落成セレモニーについてです。

八幡浜市出身で、半世紀にわたりフランスで柔道の指導に尽力し、武士道精神を世界に広めた柔道家・道上伯氏の名を冠した「道上伯体育館（Gymnase Haku Michigami：ジムナーズ・ハク・ミチガミ）」が、フランスのボルドー市に完成しました。

道上伯氏の誕生日である10月21日には、ボルドー市主催の落成セレモニーが開催され、ピエール・ユルミック市長からのご招待を受け、道上伯氏が初代会長を務めた八西柔道会の居村副会長と会員の中学生、成谷遥翔（なるたに はると）さんとともに私も参加しました。

セレモニーでは、ユルミック市長からフランスでの柔道普及に尽力した道上伯氏の功績を称える言葉がありました。私もスピーチの機会をいただき、本市出身の道上氏が遠くフランスの地で盛大に称えられていることを大変誇りに思うと挨拶させていただきました。

現地では、八西柔道会の2名が青少年国際交流事業の一環として、ジロンド県の柔道クラブとの合同稽古に参加し、汗を流しました。また、ジロンド県柔道連盟の関係者とは、交流試合の開催などについて具体的な意見交換が行われ、今後の交流発展に向けて非常に大きな成果を得ることができました。

今回の訪問を通じ、道上伯氏がフランスにおいて残された功績の大きさを改めて認識しました。八幡浜市としても、卓越した指導力と崇高な精神で日本の柔道を世界に広め、国際親善に多大な貢献を果たした同氏の功績を称えるため、名誉市民の称号を贈呈した

いと考えています。道上伯氏は八幡浜市民にとって大きな誇りであり、その功績を末永く顕彰し、次代に語り継いでいきたいと思ひます。

さて、本市の基幹産業である温州みかんの収穫は、今まさに最盛期を迎えています。先月6日には、東京大田市場で「JAにしうわ」が初出荷した早生温州みかんの初競りが行われ、私も販売促進セールスのため上京しました。

今年の温州みかんは表年であることに加え、昨年のようなカメムシ被害などの影響もなく、収穫量の増加が期待されています。近年の猛暑の影響から、今年も色づきが遅れており、やや少ない初出荷となりましたが、品質的には糖度と酸味のバランスが良いおいしいみかんに仕上がったことで、1キロ当たりの平均単価は413円と「JAにしうわ」が発足した1993年以降の最高値となった昨年を21円上回り、素晴らしいスタートを切ることができました。

これもひとえに、農業生産者の皆様や「JAにしうわ」関係者の努力の賜物だと思ひています。本市のみかんは、全国トップクラスのブランド力があり、プライスリーダーとしての地位を長く維持していますが、一方で、柑橘農家の高齢化が進み、担い手不足が課題となっています。市としても収穫期の労働力確保に支援を行うなど、引き続き柑橘産産をバックアップしていきます。生産者と市場が連携し、日本一の西宇和みかんの販売を強化することで、2年ぶりとなる100億円突破を期待しているところです。

翌週11月9日には、八幡浜みなつとで「第12回やわたはま産産まつり」及び「第7回ダルメインWorldマーマレードアワード&フェスティバルin Japan」の表彰式を同時開催しました。

当日は、直前まで雨が降り続く、あいにくの天気とはなりましたが、ちょうど収穫期を迎えたみかんはもちろん、マーマレードをはじめ八幡浜市の特産品やグルメなどが一堂に会するイベントに市内外から約1万1千人の来場者で賑わいました。

産産まつりも12回目となり、八幡浜市の秋を彩るイベントとして定着してきたと感じています。今回は、友好都市協定を締結した八幡市や職員の人事交流を続けている臼杵市からもブースを出展いただくなど、過去最多となる41団体・44ブースの出展者数となり、さらに広がりを感じているところです。

また、市制施行20周年記念企画として、やわたはま応援隊である落語家の柳家勸之助さんの特別寄席をはじめ、本市出身の2名の大学生と勸之助さんを交え「やわたはまのミライ」について、若者の貴重な生の声を聞き、意見交換を行うパネルディスカッションも開催しました。また、八幡浜青年会議所主催による「にしうわもっとセレクション」の表彰式など、趣向を凝らした企画を実施し、来場していただいた皆様にも楽しんでいただけたものと思ひます。

世界マーマレード大会の表彰式には、駐日英国大使のジュリア・ロングボトム氏をプレゼンターとしてお迎えし、多くの来場者とともに受賞者を祝福しました。

午後には同氏による特別講演会も開催され、日本と英国の深い関係について、歴史や現在の交流事業にも触れながらお話しいただきました。来場者との質疑応答では、国と国との関係は人と人とのつながりから始まるものであり、マーマレードが取り持つ縁で結ばれた八幡浜市とダルメインの交流がさらに深まることで、日英関係がより素晴らしいものとなることへの期待が述べられました。

続いて行われた英国王室へのマーマレード献上式やミートアップ事業では、高校生がマーマレードの歴史を語り、大学生が司会進行を務めました。また、保育園児による英国大使の歓迎や、JAPANマーマレード協会の協力による英国風に装飾されたレトロバスの展示など、マーマレードを通じた多様な交流が生まれ、幅広い年代の人々が一体となって大会を創り上げていることを実感したところです。

本大会は、これまでの実績が評価され、来年度以降3年間、本市での開催が決定しました。今後も、より多くの参加者が集い、一層素晴らしい大会となるよう取り組んでまいります。

次に東京やわたはま会についてです。

八幡浜にゆかりのある方、ご興味を持っていただいている企業と八幡浜をつなぐ首都圏交流イベントである東京やわたはま会は11月16日に115人の方に参加いただき盛大に開催されました。平成30年度に第1回を開催し、コロナ禍での中止を挟みながらも、今回で6回目の開催となりましたが、回を重ねるごとに参加していただいた方とのつながりが深くなっていると感じているところです。市政報告、ご当地クイズ、みんなが主役のPRタイム、物産販売など「八幡浜愛」にあふれた方々で会場は賑わい、「八幡浜」のヒト・モノ・コトでつながる温かい空気に包まれた会となりました。

また、会長である二宮清純氏には、9月に市民文化活動センターコミカンで、サッカー界のレジェンドであるラモス瑠偉さんをお招きしたトークセッションを開催していただきました。お二人の軽妙な掛け合いを楽しみつつ、サッカーを起点に世界情勢や地政学まで、普段なかなか触れることのできない興味深いお話を聞かせていただきました。

この事業は、二宮会長が故郷に貢献したいとの思いから、ご自身の広い人脈を活かして実施したもので、今後もこのような事業を継続したいとの意向も伺っています。二宮会長には深く感謝するとともに、改めて東京やわたはま会が本市を応援していただける人との絆を結ぶ機会となっていることを強く感じたところです。

全国的に人口減少・少子高齢化が進展する中で、政府も定住人口を増やすだけでなく、関係人口を増やすことを地方における重要課題として取り上げています。本市としても東京やわたはま会をはじめとして、故郷を遠く離れても、また市外の方であっても、

八幡浜市を想い、様々な形で地域に関わりを持っていただける方々を増やしていく取組を引き続き進めてまいります。

それでは、今回提案の12月補正予算の主なものについて、順次ご説明します。

まず、「新時代に対応したまちづくり」についてです。

5期目の公約でもあります愛宕中・松柏中跡地両プロジェクトについては、3月の市議会協議会で概要を説明させていただきましたが、そのうち松柏中学校跡地において、養護老人ホーム、千丈地区公民館の建設を計画しています。

現在の養護老人ホームである「湯島の里」、「あけぼの荘」はともに昭和58年建設（築42年）で、老朽化が進んでいることに加え、基本構造が相部屋で、かつエレベーターがないなど、居住環境の改善が必要となっており、2つの施設を集約し、全室個室化した新しい養護老人ホームを建設する予定です。まずは、令和7年度から令和8年度にかけて基本設計を行い、施設の概略を決定します。

千丈地区公民館は、築46年を経過し、老朽化が著しく、また、耐震基準も満たしていないことから、今回、松柏中学校跡地に新築・移転することとしています。令和7年度から令和9年度にかけて基本設計及び実施設計を行います。

八幡浜港みらいプロジェクトについては、6月市議会定例会の閉会挨拶で公表しました回転寿司店誘致について、出店が決定した回転寿司店の用地関連の経費を計上します。

四電跡地プロジェクトのうち、松蔭保育所跡地に新築、移転を進めております八幡浜児童センターについては、現在、実施設計が概ね完了したところですが、令和8年4月の本体工事着手に向け、債務負担行為を設定し、入札等の準備を進めていきます。開設は令和9年4月を予定しています。

脱炭素社会の実現に向けた取組については、公共施設照明LED化事業の第Ⅱ期として、公民館等の公共施設及び道路灯、グラウンド照明等の屋外施設、また市営魚市場について照明LED化改修工事を令和8年度に実施する予定です。12月補正予算では債務負担行為を設定し、施工業者の選定や契約など施工に向けた準備を進めていきます。

次に「安全安心なまちづくり」についてです。

八幡浜漁港及び八幡浜港に設置している浮防波堤及び浮棧橋について、連結チェーンの破断が見つかったことから、冬季の荒天に備えて早急に補修を実施します。また、県が実施する川之石港の港湾施設の補修等に係る負担金を増額します。

次に「暮らしやすいまちづくり」についてです。

障害福祉については、対象者の高齢化や障害の重度化に伴い、障害福祉サービス需要や更生医療費等が年々増加しています。今年度上半期の実績により当初予算を大きく上

回る見込みであることから、今回、予算を増額します。

令和7年度をもって閉校となる神山小学校、川上小学校、双岩小学校の3校については、3月下旬にそれぞれの学校において閉校記念式典を開催します。各学校の閉校記念事業として、記念誌の発行・記念碑の建立を予定していますので、実行委員会に対する補助金など、閉校記念式典に必要な予算を計上します。

また、4月には新たに八幡浜南小学校が誕生します。新しい校歌は、作詞を三瓶町出身の童話作家である宮中雲子氏に、作曲を八幡浜市出身の愛媛大学教授の井上洋一氏にお願いしています。お二人には、生徒たちに対して校歌の作詞、作曲に込めた思いや歌唱の指導もしていただくこととしていますので、関連する費用を今回計上しています。

そのほか、特別養護老人ホーム青石寮の運営に関する費用に対する負担金を計上しています。

次に「産業振興の取り組み」についてです。

商工振興施策として市内中小企業の育成振興を図るため、八幡浜市中小企業振興資金融資制度の完済者に対し、保証料と利子の一部を補助していますが、金利上昇などの影響により資金の借り換え等が増加していることから予算を増額します。

最後に「その他の取り組み」についてです。

先ほども申しあげましたとおり、世界に武士道精神を広めた柔道家である道上伯氏の功績を称え、八幡浜市名誉市民の称号を贈り、顕彰するための同意案と関連予算を今回計上しています。

以上が、12月補正予算案の概要であります。

この結果、

|           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| 一般会計      | 3億3,091万7千円の追加                |
| 特別会計（5会計） | 5,009万4千円の追加                  |
| 企業会計（4会計） | 9,437万6千円の追加                  |
| 合計        | 4億7,538万7千円の追加を、ご提案申し上げるものです。 |

これらの財源といたしましては、国・県支出金、市債等それぞれの事業施策に対応する額を計上しています。

以上、ご説明申し上げました補正予算案等につきまして、慎重審議を賜りまして、ご賛同いただきますようお願い申し上げます。